

情報活用能力育成のための指導事例【小学校 第3学年 図画工作】

単元・題材名	ざいりょうから ひらめき ～見て・さわって・かんじて・ピッカーン～	指導時間（本時）	4 / 5
本時の目標 (3観点8要素)	教科・科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの発想のよさ、おもしろさから、自分の発想を広げることができる。</li> <li>材料の使い方を考え、自分の作品を工夫することができる。</li> </ul>	
	情報教育	<p>[実践] ■課題や目的に応じた情報手段の適切な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすい発表のため、無線ペンタブレットを用いて線や図を描くことができる。</li> <li>■受け手の状況などを踏まえた発信・伝達</li> <li>自分の考えを相手に分かるように表現する。(モA41-2)</li> </ul>	
活用する主なICT機器等	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コンピュータ</li> <li>■教材提示装置（実物投影机、書画カメラ）</li> <li>■デジタルテレビ</li> <li>■デジタルカメラ</li> <li>■無線ペンタブレット</li> </ul>		
本時の概要	<p>終末時に毎回、児童の作品をデジタルカメラで撮影させ、記録として残しておく。前時と本時の作品を比較し拡大提示させ、他の児童にも分かりやすく伝えられるように、無線ペンタブレットで書き込ませながら発表させる。</p>		
本時の流れ	主な学習活動	ICT活用の工夫及び留意点等 (○：教員の活用，◎：児童生徒の活用)	
	導入	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 学習課題を立てる。 色を加えたり，材料を組み合わせたたりして，作品を完成させよう。</p>	<p>○ 前時まで前に作り上げた作品（実物）を，教材提示装置で拡大提示し，前時までの学習内容を想起させる。</p> <p>※ 説明の際に，無線ペンタブレットを活用することで，作品の変化が確認しやすくなり，課題を明確につかませることができる。</p>
	展開	<p>3 参考作品や話し合いを基に，材料の特徴を生かして作品づくりをする。</p> <p>4 作品の変化を確認する。</p>	<p>○ 作品の全体や細部を拡大して見せる。</p> <p>※ 互いの作品のよさや変化のおもしろさに気付かせる。</p> <p>○ 材料の生かし方や道具の使い方などを大きく映す。</p> <p>※ 短時間で確実に説明したり，発表したりできる。</p>
	終末	<p>5 本時の学習を振り返り，次時の活動の見通しをもつ。</p>	<p>◎ 児童の発表に，無線ペンタブレットを使用させる。（本時の作品と，前時に撮影した画像を比較させる。）</p> <p>※ 児童の位置から発表させ，時間を確保する。</p> <p>※ 発表の箇所が明確になるように，画面に書き込ませ，児童の意識を集中させる。</p> <p>◎ 児童の作品を，デジタルカメラで撮影させる。</p>
使用した教材・資料 (コンテンツ)	<p>○名称・出典・内容など</p> <p>【参考文献】</p> <p>「すべての子どもがわかる授業づくり～教室でICT機器を使おう～」高橋純・堀田龍也 高陵社書店</p> <p>「ICT活用実践事例集」 2011年 鹿児島市立山下小学校</p>		
ICT活用の指導上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なICT機器を活用させ、慣れ親しませることから始めるとよい。教材提示装置を活用した拡大提示、デジタルカメラを活用した作品の経過の保存（評価にも生かすことができる）、無線ペンタブレットを活用した発表など、児童にも活用させることが重要である。</li> </ul>		
備考	<p>○ICT活用に関して日頃から気を付けていることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が主体的にICT機器を使えるように、児童に1日1回の活用を行わせる。</li> <li>教師は、基本的な授業構成を心掛け、ICTの活用ばかりにこだわりすぎないようにする。</li> <li>前時の学習を想起しやすしたり、児童の作品の変化を視覚的に理解させたりするため、児童の作品の写真や話し合いを行った後などのデータを蓄積しておく。</li> <li>ICT機器の活用時のマナーを適宜指導する。</li> </ul>		

【本時の目標における情報教育（3観点8要素）の略記について】

「情報活用の実践力」→[実践]、「情報の科学的な理解」→[理解]、「情報社会に参画する態度」→[態度]

「情報活用能力育成モデルカリキュラム」の対応番号→モ番号